

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	岐 阜 県
-------	-------

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	古川町立古川小学校					フロンティアティーチャー	下出 尚弘		
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	4	3	3	3	3	2	21	32
児童数	102	122	102	99	119	110	6	660	

II 研究の概要

1. 研究主題

学ぶ楽しさが実感できる授業 －基礎・基本の確実な定着を図るきめ細かな指導の工夫－

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>○重点教科について</p> <p>学力向上フロンティア事業の1年次については、基礎・基本の確実な定着を図るための指導計画の作成に全職員で取組、その中で、より具体的に指導方法の工夫、少人数指導・TT指導の工夫について考え、実践を行った。特に、国語・算数・理科、生活の4教科を重点教科として研究実践を進めた。4教科を重点教科とした理由を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生～6年生 国語 話すこと・聞くこと・書くこと・読むことは、国語で身に付けたい基礎・基本であるとともに、他教科の基礎・基本の確実な定着を図るために必要不可欠なものであるため。 本年度、本校の教育の重点目標は、「精一杯自己表現する子」である。この重点目標の具現のために、確かな国語の力を付けることが大切であるため。 ・1年生～6年生 算数 1年生から6年生まで、系統性の高い教科であり、1年生から基礎・基本の確実な定着を図ることが特に大切な教科であるため。 児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため。 ・1年生～2年生 生活、3年生～6年生 理科 生活、理科ともに、教材研究、教材教具の準備等について、専科の職員と連携し研究実践を進めることで、より基礎・基本の確実な定着を図ることができるため。 ・少人数指導の実施方法について 3年生～6年生の算数について少人数指導を行った。単元の一部で、児童一人一人の主体的選択を重視した習熟度別集団や教師の意図による等質集団で少人数指導を進めた。補充的な学習や発展的な学習により基礎・基本の確実な定着と、発展的な内容の習得を進めた。 ・一部教科担任制の試みについて 本校では、5、6年生の理科の授業において学年所属の理科の得意な教員が、学年の理科を担当する方法で教科担任制を行った。理科を一部教科担任制にした理由は、以下の2点である。理科の授業では、児童に安全な学習を保証するために、実験器具の準備や薬品等の扱いなどについて正しい知識が必要であるため。また、教師の豊富な知識と科学的な見方・考え方が、授業の内容や児童の学習活動に広がりや深まりをもたらすため。
--

(2) 年次ごとの計画

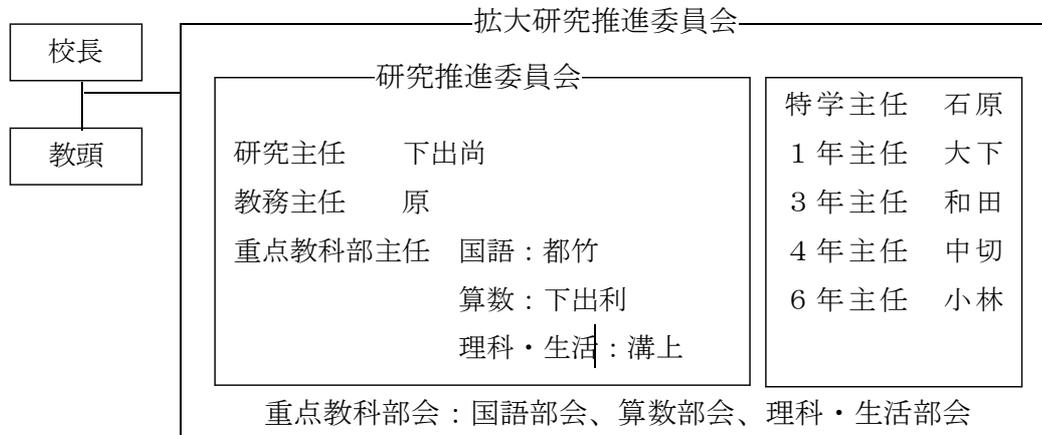
平成15年	<p>○ テーマ</p> <p style="text-align: center;">学ぶ楽しさが実感できる授業 －基礎・基本の確実な定着を図るきめ細かな指導の工夫－</p> <p>「一時間一時間の授業で子どもたちを本当に育てているだろうか。」「真に子どもたちにつけるべき力をつけてきたのか。」を教師である自分に問い正した時、</p>
-------	--

度	<p>気になる何人かの児童の顔が浮かぶ。これらの気になる児童の実態をさらに的確に把握し、基礎・基本の確実な定着を図るきめ細かな指導の工夫をすることが、私たちに課せられた最も重要な課題である。そして、全ての児童が、基礎・基本を確実に身につけ、それを基に自ら学び自ら考え、「わかった」「できた」と自分の力で課題を解決したという学ぶ楽しさが実感できる授業を創造することをめざしていきたいと考えた。このような理由から、研究主題を『学ぶ楽しさが実感できる授業－基礎・基本の確実な定着を図るきめ細かな指導の工夫』とし、実践を進めた。</p> <p>○研究仮説 教科の基礎・基本、ねらい、評価規準を明確にした指導計画の作成、児童一人一人の実態を的確に把握した個に応じた指導の工夫、指導体制の工夫などのきめ細かな指導の工夫をすれば、全ての児童に基礎・基本を確実に定着させ、それを基に、自ら学び自ら考え、「わかった」「できた」と自分の力で課題を解決したという学ぶ楽しさが実感できる授業を展開することができる。</p> <p>○研究の内容・方法 研究内容1・指導計画の作成 ①基礎・基本、ねらい、評価規準の明確化 ②個に応じたきめ細かな指導の位置付け ・つまずきの様相に対する指導・援助の手立ての明確化 ・練り合いの場の設定 ③体験的な学習・課題解決的な学習の位置付け 研究内容2・個に応じた指導の工夫 ①個の理解度・習熟度を的確に把握する評価と、それを生かした指導の工夫 ②個に応じた学びの工夫 研究内容3・指導体制の工夫 ①加配教員と連携した指導の工夫（算数科） ・少人数、TT、個別指導等加配教員との効果的な指導の試行 ②教師の得意分野を生かした一部教科担任制の試み（理科） 特に、1年次は、研究内容1・指導計画の作成を進める中で、研究内容2、3の推進に努めた。</p>
---	--

平成16年度	<p>○ テーマ 学ぶ楽しさが実感できる授業 －基礎・基本の確実な定着を図るきめ細かな指導の工夫－</p> <p>○研究の見通し 平成15年度の研究仮説を継承し、研究実践を行う。</p> <p>○研究の内容・方法 平成15年度の研究内容を継承し、研究実践を行う。 なお、平成16年度は、より「自ら学ぶ子の育成」という視点から、研究内容2②個に応じた学びの工夫について、より具体的で有効な実践を積んでいきたい。また、「基礎・基本の確実な定着を図る」という視点から、研究内容3①加配教員と連携した指導の工夫（算数科）について、少人数指導・TT指導の必要性・有効性を吟味して実践を行う。</p>
--------	--

(3) 研究推進体制

実践研究組織図



(国語主任は2学年主任兼務、算数主任は5学年主任兼務)

○重点教科を国語、算数、理科・生活とし、各学年の職員が3教科に分かれた。自分の担当する重点教科については、学年の研究の中心となり実践を進めた。また、重点教科ごとに教科部会を行い、教科の学年の系統性や発展性などについて検討し、研究実践を進めた。

III 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

本年度の研究の成果として、以下の点が挙げられる。

- ◎基礎・基本、ねらい、評価規準、少人数指導の必要性を明確にした指導計画を作成して指導内容が焦点化・重点化し意図的な実践を積むことができた。
- ◎児童のつまずきを予測し、指導・援助の手立てを考える指導計画の作成、実践を積む中で、「個に応じたきめ細かな指導」という意識が職員全体に高まってきた。
- ◎少人数指導、T T指導の実施や意図をもった実践によって、職員同士の実践交流、児童の学習の伸びやつまずきについての交流が活性化した。
(以上アンケート①参照)
- ◎児童・保護者のアンケートなどから、算数の少人数指導を支持する声が多く聞かれた。(アンケート②、③参照)
- 公表会を終えての職員アンケートより (アンケート①)
 - ・単元の1時間ごとのイメージをもって単元指導計画を作成したことで、次の時間につながるまとめやねらいをもって指導できた。
 - ・単元指導計画を作成し評価規準を明確にすることで、その単元・授業で付けなければならない力がよくわかり、見通しをもって授業をすることができた。
 - ・評価規準を明確にした単元指導計画作りは、とても難しく大変だったが、作っていくうちに授業の出口というものが見えてきた。
 - ・個に応じたきめ細かな指導を事前に考えておくと、授業でゆとりがもて、児童にゆったりかかわることができた。
 - ・分からないと自分で質問し解決しようとする前向きな子が増えてきた。
- 少人数・T T指導についての児童アンケートより (アンケート②)
 - ・少人数の方が、少ない人数で集中できて手もよく挙げることができた。
 - ・少人数は、人数が少なくて当たりやすいので、意見がたくさん言えて楽しい。
 - ・二つのコースがあると、自分に合ったコースが選べるのでいい。
 - ・じっくりコースで、あせらずに問題を考えられて、よくわかるようになった。
 - ・どんどんコースで、たくさん問題を解いたり、友だちと説明をし合ったりして、算数が楽しい。
 - ・(T Tの授業では) 一人の先生が黒板に書いているうちに、もう一人の先生が問題を解くヒントをくれたりするのがいい。
- 少人数・T T指導についての保護者アンケートより (アンケート③)
 - ・習熟度別は、子どもの能力を伸ばすのによい方法だと思う。
 - ・子どもが、少人数授業は、自分に合った進み具合なので好きだと言っている。

2. 今後の課題

今後の課題として、以下の点が挙げられる。

- 単元指導計画に基づき実践し、見直し、修正を図る。
- 個の学びを支える学び方の育成の強化を図るとともに、練り合いの場を活性化させる指導の手立てを具体化する。
- 少人数指導、T T指導の効果的な在り方を、実践を積み交流する中で、今後さらに明確にする。明確にする視点として以下の点が挙げられる。
 - ・少人数指導・T T指導の必要性・有効性の明確化
 - ・少人数指導の「じっくりコース」「どんどんコース」の学習活動の違いの明確化
 - ・T 1、T 2の役割の明確化
- 授業改善のための児童による授業評価の活用について、日々の評価だけでなく、単元、学期末についても授業評価を計画的に行い、授業改善に生かせるようにする。また、具体的な授業での児童の様相、教師の指導を振り返ると、もう一度足下を見つめ直して実践することの必要性を感じる。そこで、以下の点について今後大切にしていきたいと考える。
 - ・教師が引っ張る授業ではなく、児童が、自ら学び自ら考え、仲間と練り合い追究していく授業をめざす。
 - ・学習の土台として「学習姿勢」「読む・聞く・書く・話す」力が不可欠である。これらの姿勢や力は、全教科を通じて培わなければならない。そのために、全校で共通指導する。
 - ・各教科において、自ら学び考え、課題を解決するための「学び方」を明らかにし、全校でこだわり、共通指導する。
 - ・学ぶ意欲を喚起する魅力ある授業づくりのための教材研究・題材開発を行う。

IV 学力等把握のための学校としての取組

- ・学力調査の実施（年1回、5月）
- ・各単元終了後に、単元テストを実施

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・平成15年11月17日に公表会を実施、公開授業、全体会、分科会を行うとともに、授業案・単元指導計画を掲載した資料集を配布した。
- ・平成15年度教育実践論文を作成した。その中に、公開授業をした全職員の実践のまとめを掲載することができた。

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- | | | | | |
|-----------|--|--|--|--|
| 【新規校・継続校】 | <input checked="" type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input type="checkbox"/> 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | <input type="checkbox"/> 6学級以下 | <input type="checkbox"/> 7～12学級 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 13～18学級 | <input type="checkbox"/> 19～24学級 | | |
| | <input type="checkbox"/> 25学級以上 | | | |
| 【指導体制】 | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導 | <input checked="" type="checkbox"/> T、Tによる指導 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 一部教科担任制 | <input type="checkbox"/> その他 | | |
| 【研究教科】 | <input checked="" type="checkbox"/> 国語 | <input type="checkbox"/> 社会 | <input checked="" type="checkbox"/> 算数 | <input checked="" type="checkbox"/> 理科 |
| | <input type="checkbox"/> 生活 | <input type="checkbox"/> 音楽 | <input type="checkbox"/> 図画工作 | <input type="checkbox"/> 家庭 |
| | <input type="checkbox"/> 体育 | <input type="checkbox"/> その他 | | |
| | | | | |

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無